

各関係機関団体の長
各病虫害防除員 } 殿
J P P - N E T 会 員 }

福岡県病虫害防除所長

平成22年度病虫害発生予察注意報第1号について

このことについて、病虫害発生予察注意報第1号を発表したので送付します。
今年は、主要感染時期である開花期に降雨が続いていますので、防除の徹底を指導願います。

注意報 第1号

麦

- 1 対象作物：小麦、二条大麦、裸麦
- 2 病虫害名：赤かび病
- 3 発生地域：県下全域
- 4 発生時期：平年よりやや早い
- 5 発生量：やや多～多
- 6 注意報の根拠
 - (1) 赤かび病については、小麦は主要感染時期である開花期から約10日間、二条大麦は穂揃期の約10日後に降雨（平均気温15℃以上）に遭遇すると多発する可能性が高い。本年は、主要感染時期である4月19日に39mm(平均気温15.3℃)、20日に14.5mm(同気温15.2℃)、21日に10.5mm(同気温16.3℃)、22日に39mm(同気温13.7℃)の降雨があった(降水量及び気温は、太宰府アメダスのデータ)。
 - (2) 本病が多発した平成10年は、小麦赤かび病の主要感染時期である開花期に3日間、暖かい雨{4月22日28mm(平均気温19.8℃)、23日18mm(同気温21.4℃)、24日6mm(同気温22.5℃)}に遭遇した。
 - (3) 福岡県農業総合試験場の調査によると、4月11日以降、場内の小麦圃場で赤かび病菌の子う胞子の飛散が認められている。

7 防除上注意すべき事項

- (1) 本年における麦類の出穂期は、平年よりやや早い状況である(第1表)。なお、出穂期は、播種日、品種及び今後の気温の変動等によりほ場ごとに異なるので注意する。
- (2) 小麦における追加防除は、開花期散布後、7～10日後に行う。薬剤については、本病に効果の高いトップジンM剤やワ-クアック剤及びシルバキュア剤の使用が望ましい。
- (3) 二条大麦の防除適期は、穂揃期の約10日後(出穂期後12～14日、蒴殻が抽出し始める頃)である。同防除を実施していないほ場においては、早急に防除を実施する。また、この時期は収穫前30日頃となるため、薬剤の選定に当たっては、収穫前規制に留意する。
- (4) 裸麦における追加防除は、穂揃期(出穂期後2～4日)散布後、7～10日後に行う。薬剤については、本病に効果の高いトップジンM剤やワ-クアック剤の使用が望ましい。
- (5) 降雨の合間に薬剤防除を行う場合、液剤は散布後一旦乾けば降雨があっても薬剤の効果はある。しかし、粉剤の場合は、散布後6時間以内に降雨があった場合は薬剤の効果は低下するので、降雨情報に留意する。なお、薬剤散布後に降雨があり、再度散布すると散布回数は2回とカウントされるので注意する。
- (6) 防除に当たっては、農薬使用基準(収穫前使用日数、使用時期、使用回数等)を遵守する。特に、小麦、大麦で農薬使用基準が異なる薬剤が多いので注意する。また、周辺圃場への飛散防止対策を講ずる。

第1表 農業総合試験場における麦類の出穂期及び開花期

麦種	品種名	播種期	出穂期	平年比	前年比	開花期	前年比	調査場所
小麦	チコ [®] イ [®] ミ	11月19日	4月8日	-3	±0	4月20日	+4	筑紫野市
	シロガ [®] ネコムキ [®]	11月19日	4月5日	-5	-	4月15日	-	大木町
二条大麦	ほうしゅん	11月24日	4月10日	-1	+3	-	-	筑紫野市
	ニシノチカラ	11月24日	4月6日	+1	-	-	-	大木町
	はるしづく	11月24日	4月6日	-	+1	-	-	大木町

注1) 福岡県農業総合試験場農産部(筑紫野市)及び筑後分場(大木町)調べ

注2) 平年: H11～H20年の平均、「ほうしゅん」は前5年の平均

注3) - : データなし

8 その他

麦類の検査規格では、食用麦の赤かび病被害粒の混入限度は0.0%である(赤かび病被害粒が0.05%以上混入しているものは規格外となる)。また、小麦穀粒に含まれるかび毒(DON)の暫定基準値は1.1ppmで、この値を超える小麦は流通できない。